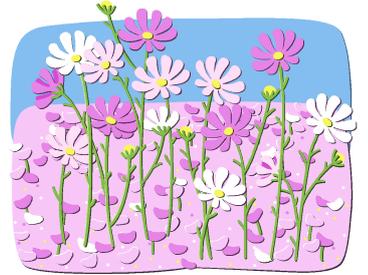


丹邱学舎

＜学校教育目標＞
志をもち、自ら学び、共に高め合い、
たくましく生きぬく西溪っ子の育成

令和4年9月1・2日(月) 文責 校長 南里美紀江

2学期スタート！目指すは成長プラスα



2学期が始まって、およそ3週間近く経ちました。久しぶりに会ったら、とても身長が伸びた子どもたちや、顔つきが大人っぽくなった子どもたちがいて、若い細胞のエネルギーを感じています。毎日会っていたら気づかない成長や変化が、久しぶりに会うとはっきりと分かります。

「子どもたちは日々成長している！」

「成長する大きなエネルギーを持っている！」

ということを改めて実感し、これを生かす学校生活にしたいと思いました。

そこで、全校集会では、2学期に西溪っ子に望むことについて話しました。キーワードはプラスα(アルファ)。1学期は「当たり前のことができるようになるろう」を目標に、下の3つの項目を目標にしていました。1学期の間に随分とできる人が増えました。特に4年生の成長は素晴らしいです。そこで、2学期は1学期にできた「当たり前のことができる」をさらに発展させて取り組むことを目標にします。それぞれの学年や個人差はあるかと思いますが、1人1人が今の自分より、成長した明日の自分をつくることのできるよう支援していきます。

【1学期】

①元気にあいさつする



【2学期】

①**相手を元気**にするあいさつをする

②靴やスリッパをそろえる



②**自分以外の周囲や友だち**の靴やスリッパも気にかけてそろえる 声かけする

③授業の構えをつくる
(時間を守る 道具の準備、立腰)



③授業開始前に準備(道具・立腰)をして、**前回の授業の振り返りや予習のための本読み**をする



読書のすすめ！ ～読書の効能～

年々活字離れが進んでいます。西溪校も例外ではなく、読書をする子どもたちの人数と読む量が減ってきています。このことが、じわじわと子どもたちの成長に影響が出てきているのではないかと危惧しています。

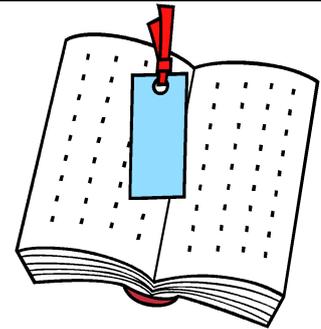
確かに、現在の子どもたちは習い事や塾で忙しいし、ゲームやネットなど身近に楽しいことがたくさんあります。また、分からないことや知らないことも、本を読んで調べなくても、ネットで、しかも動画で視覚的に理解することができます。

だけど、読書だからこそ伸びる力はたくさんあります。与えられた画像でなく、文字から自分で想像する力は、自分の人生やこれからの社会を創造する上でとても大切な力になります。ある学習塾経営者は、読書の効能を右のように述べています。子どもたちが読書に親しむ環境をつくるのも、大人の大切な役割だと感じています。

- 1 共感能力がアップ
- 2 創造力が鍛えられる
- 3 コミュニケーション能力がアップする
- 4 語彙が増える
- 5 年収があがりやすくなる
- 6 知識が増える
- 7 人に会わずして考え方を勉強できる
- 8 ストレス解消に最適

<多読賞の紹介>東図書館100冊達成者

- 6月末 4年 増岡さん 高柳さん 山口さん
- 7月末 2年 石嶺さん
4年 泉さん 井上さん 新天寺さん
5年 七田さん
- 8月末 2年 永石さん 高柳さん
3年 森川さん
4年 緒方さん
6年 陣内さん 田中さん



校長のつぶやきコーナー

先日9年生の修学旅行に同行し改めて、9年生の優しさや人間性の豊かさに触れ、感心しました。前日の夜に変更があって添乗することになったガイドさん。その説明はどちらかというと大人向けでした。しかし、その説明にきちんとリアクションしたり、安全運転の運転手さんに毎回お礼を言ったり、ちゃんと相手の気持ちを考え、敬意を払った行動ができていました。最終日にガイドさんと運転手さんへお土産を渡した生徒もいて、感動されていました。また、湯田温泉の女将劇場の観劇場面でも、生徒たちの思いやりのある行動がたくさんみられ「大人の対応」ができていて、その姿に我々教師は感動しました。

この優しさや人間性の豊かさは、決して学校だけで培えるものではありません。家庭や地域で幼い頃から、愛情たっぷりに育てられているからこそ、初めての場所や相手に対しても、心が温まる対応ができるのだと思います。

これから、卒業までの6ヶ月。最高学年としてさらにどのような姿を見せてくれるのか、とても楽しみです。

